

SALMON 情報

第16号

2022年3月

- 本州日本海域における野生サケ資源の現状と保全
- サケ放流概況の現状と改善方向
- 互いの特性を生かしたふ化場間の連携事例
- サケ・マス採卵場における採卵廃液消毒のすすめ
- 第3回 NPAFC 国際サーモン年バーチャル・ワークショップ
- さけの遡^{かえ}る川-2 津軽石川（岩手県）
ほか



編集 水産資源研究所さけます部門



国立研究開発法人
水産研究・教育機構

目次

研究成果情報

- 本州日本海域における野生サケ資源の現状と保全 飯田真也 3

技術情報

- サケ放流概況の現状と改善方向 安達宏泰・石田行正 9

互いの特性を生かしたふ化場間の連携事例

- ～新潟県での取り組み～ 江田幸玄・ほか 14

会議報告

- さけます関係研究開発推進会議 本田 聡・佐藤俊平 17

第29回北太平洋溯河性魚類委員会 (NPAFC) 年次会議

- 科学調査統計小委員会 (CSRS) の概要 斎藤寿彦 20

トピックス

- サケ・マス採卵場における採卵廃液消毒のすすめ 大本謙一・川名守彦 23

第3回 NPAFC 国際サーモン年バーチャル・ワークショップ:

- 太平洋サケマス類の生産と環境変動の関係 浦和茂彦 25

さけます情報

- さけの遡^{かえ}る川-2 津軽石川 (岩手県) 小松信治 32

- 北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖 外山義典 35

さけます人工孵化放流に関する古文書の紹介 (8)

- 半田芳男氏からの寄贈資料と支笏湖保勝会について 野川秀樹 37

mini column

溪流釣りの愛好家には馴染みの深い魚であるヤマメは、サクラマスの陸封型もしくは河川生活期の個体の呼び名です。稚幼魚期のサケ科魚類に共通して見られる特徴である「パーマーク」(体側の斑紋)が特に鮮やかで、その美しさから「溪流の女王」などと言われることもあるようですが、北海道ではメスのほとんどが降海するため、河川に残留しているのはオスばかりです。

今回の表紙写真は、当機構徳志別さけます事業所長を務められ、水中写真愛好家としても知られていた北口裕一さん(写真右下)が撮影されたものです。北口さんは残念ながら、令和3年4月、不慮の事故により他界されました。ここに北口さんのご生前のご功績を偲び、心から哀悼の意を表します。

